



小さな愛の種を蒔こう

TOP

活動報告

運動の担い手

FVIとは

参加する

募金する

お問い合わせ

イエスの友の輪

ホーム>世界>インド「ダリットたちの尊厳回復プログラム」報告4

一緒に歩もう！一緒に変わろう！「立ち上がった世界の人々」の21世紀の夢を応援しよう！

プログラム内容  
2010年9月

報告1  
10月

報告2  
11月

報告3  
12月

年間レポート  
2011年9月

報告4  
12月

報告5  
2012年1月

報告6  
3月

報告7  
6月

報告8  
10月



## 抑圧された人々、ダリットたちの尊厳回復プログラム

南アジア・インド北部

### 本当の尊厳回復 内なる変革から始まる抑圧社会への挑戦

地域変革カタリスト・ラムスラットさんが数年前にウタル・プラデシュ州で出会ったゴータムさんは、長年、ダリットの人々の間で彼らの状況改善のために働き続けてきた。彼には、その経験から到達した一つの確信がある。「真の改善は、外からの抑圧を取り除くことから始めるものではない。抑圧されている人々が、自分には価値があると気づき立ち上がれるようにするための関係から始めるものだ」と。

けれども、人間とはみなされない過酷な扱いを受けてきた人々にとって、「自分には価値がある」と信じることは、たやすいことではない。食べられる物から始まり、人間以下としての扱いを受ける人との関係、知識を得る機会の剥奪、さらに社会慣習でもありとあらゆる場面で、社会全体から「あなたは無価値だ」と刻印を押されてきたのだから。そこでゴータムさんは、ダリットの人々が無意識に信じている社会の成り立ちの枠組み(これを「世界観」というが)のなかで、彼らが違う考え方を受け入れやすい立場を選択した。以来、ダリットの人々が、大切なことを教えてくれる人だと認識できる格好と生き方をし、彼らの間に住み込んでいる。

ダリットの人々にとって崇高な導師の威厳を持ったゴータムさんが教えたのは、今まで聞いたこともないことだった。「あなたたちは、限りなく貴く造られた。」そればかりか、導師の格好をしながら、ゴータムさんは、自分のために人をあごで使う代わりに、人を癒し、苦しんでいる人々を何とか助けようといつも関わり続けた。人を使うか、人に使われるかの社会で、ダリットの人々には驚愕する行為だった。

造られ愛され、社会に貢献できる能力も託されている者」に取り替えて、人生を新しく出発する告白をするのだ。そして「食べ物でも人との関係でも、知識を得る機会への参加も、さらに社会慣習でも、これからは新しい見方で照らされた生き方をしていきます。」という宣言をする式である。これは自分自身が変わることで、社会の変革につながるという信念と生き方の決意表明である。

その後、ゲストとして参加したラムスラットさんが、ゴータムさんたちリーダーたちと一緒に、新しい生き方の告白をした人々の足を洗う式を行った。これは、まったく虫けらのように扱われてきた人々にとっては、王様になったような待遇を受けることだった。彼らはラムスラットさんたちがこの場に同席し、彼



ゴータムさんたちと一緒にラムスラットさんが参加した足を洗う式

この10月、ゴータムさんに関わってきた何十人かの村人たちは、自分たちの生き方の決断をあらわす式に臨むことを決めた。人々を励ますために地域変革カタリストのラムスラットさんも式に同席することになった。今までずっと信じ込んでいた無意識に植えつけられた「わたしは無価値という烙印を社会で押された者」から「わたしは、貴い者として

ものの見方が変革され新たな力を得たインド・ダリットの人々

## 人間以下の存在からの回復

インド一般社会：ダリット = 虫けらの烙印



真実の人の見方：人が全ての面で成長し、「共に喜ぶ社会」が実現

らの新しい生き方の証人となってくれたこと、そればかりか、ゲストにも関わらず、彼らの足を洗ってくれたことに心から感謝してくれた。

ラムスラットさんはこう、伝えてきた。「それは、胸に熱いものがこみ上げてくる瞬間だった。わたしもあふれる涙を抑えることができなかった」と。虫けらのように扱われてきた人々は感動のあまり、泣き崩れ、女性たちのなかには、想像したこともなかった経験に「どうぞ、わたしの足など洗わないでください。」と叫ぶひともいたという。この人々が、新しい生き方の経験をし、自分が受けたように他の人を限りなく大切な存在として関わる決意をしたことをはっきりと感じたのだった。

今、ラムスラットさんが心から願い祈っているのは、この人々が、自分たちもいやというほど見下され、社会では当たり前の人を見下げる生き方から、人に仕える生き方へと変えられ続けていくことだ、という。

ラムスラットさんは確信している。人々の間から差別が本当に消えるのは、人々のものの見方が変革されたときだ、と。その日まで、あきらめずに忍耐強く、人々の間で教え、仕え続けていこうと彼自身が新たな決意をした10月の集会だった。

[プログラム内容](#) [報告1](#) [報告2](#) [報告3](#) [年間レポート](#) [報告4](#) [報告5](#) [報告6](#) [報告7](#) [報告8](#)

[Page Top](#)

[Share](#) |

[ホーム](#) [活動内容](#) [FVIの特徴](#) [参加する](#) [寄付・献金](#) [お問い合わせ](#)

Copyright(c) Friends with the voiceless International All Right Reserved

